

R4-02

防犯意識向上と非行行動抑制の取組

- 管内 胆振管内
- 分類 通学路の点検 防犯教室・防犯訓練 安全マップ
スクールガード・リーダー等の活用 その他（ ）
- 教育課程 教科（保健他） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低）小学校（中）小学校（高）中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 関係機関と連携し、薬物乱用の現状と防犯に関する指導の実施
- 2 生徒が主体的に非行行動の抑制について考察する演習の実施

■取組の実際

ねらい

- 防犯に関する理解を深めるとともに、犯罪に巻き込まれないための危機回避能力を高め、非行行動を抑止する。

内容

- 1 関係機関（北海道厚生局麻薬取締部）と連携した専門的な知見からの指導
 - (1) 麻薬取締官の職務内容の紹介
 - ・麻薬取締官は薬物や法律の専門知識が必要な仕事で、大学で法学や薬学を学んだ人等が職務を行っている。麻薬取締官というと、薬剤師のイメージがあるかもしれないがいろいろな人がいる。検察や警察ではないが、「特別司法警察員」なので「逮捕権」を有している。捜査を遂行する上で危険を伴うことがあるので、逮捕術訓練や拳銃射撃訓練も行っていることを学んだ。
 - (2) 薬物利用の危険性について
 - ・薬物使用に関わる事例の紹介では、薬物の使用をすすめてくる人物は言葉巧みに近づいてくることが多い。日頃から自分が付き合う人が、どういう人か考えて行動するだけでも犯罪に合う可能性を避けることができることを学んだ。
 - ・薬物の種類ごとに、人体に与える影響と影響が長期化することを学んだ。
 - ・薬物乱用者の事例をお話いただき、薬物使用が人生をむしばんでいく様子を想像し、薬物の使用は危険だと学んだ。
- 2 生徒からの質問と非行行動の抑制について
 - ・薬物を自分から使用するのは犯罪だとわかったが、他人から知らない間に使用された場合の刑罰はどうなるのか知りたい。
 - ・どのような経緯で、使用に至ったかによる。1回目は知らずに摂取したとして、その後、継続した使用にならないことが大切である。また、薬物を強制的に摂取させられそうな場面に遭遇しないよう生活することの重要性について説明を受け、生徒達は主体的に非行行動の抑制について考えた。



成果と課題

- 麻薬取締の現場で実際に勤務している麻薬捜査官からの説明は、臨場感があり、薬物乱用者の現状を知り、防犯意識を高めることができた。
- 薬物乱用が起こる社会構造を理解し、危機回避能力を高めるとともに、非行行動を抑止することができた。
- 薬物乱用防止を含めた非行行動の防犯意識を高めるとともに、家庭・地域・関係機関等と生活安全の取組を強化する必要がある。